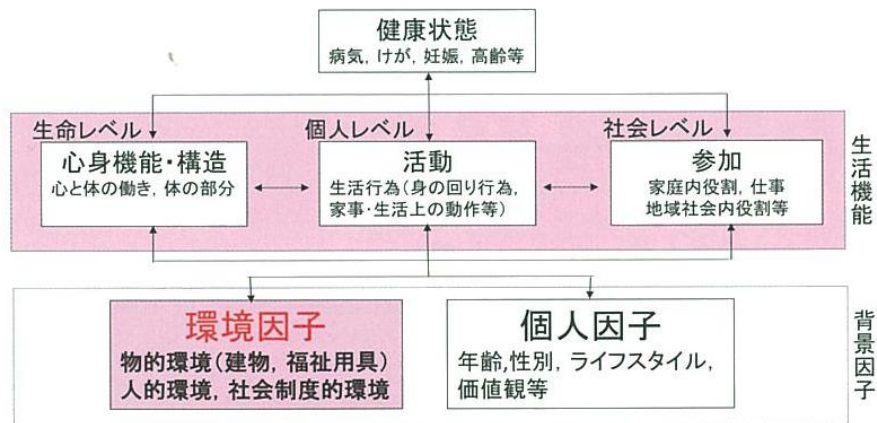


## コラム 新しい障がい観 ICF（国際生活機能分類）とは？

ICFでは「生活機能」が何らかの理由で制限されている状況を「障害」としています。例えば、障害のある人が「買い物の困難さ」に直面する原因には、その人の抱える障害だけではなく、お店にエレベーターがないことや、途中で手を貸してくれる人がいないことなど、いろいろな要因が存在します。つまり、障害を個人と周囲の環境双方からとらえ、人間の状況を全体的に理解することをめざしているのがこのICFなのです。

学校教育においても、これまで以上に環境因子に目を向け、個に応じた合理的配慮が求められています。



ICF 新しい障がい観の概念図

## 日常の中の年少・年中・年長児の交流 (幼稚園)

年長児が虫取りをしているのをじっと見ている年少児がいたり、年中児が砂場から大きな川を流し始めると、だんだんいろいろな年齢の子供たちが集まってきたりするように、幼稚園の生活は、他者との出会いやものやこととの出会いに溢れています。年少児や年中児が年長児に憧れ、「あんな風にやってみたい」と思うことから遊びが生まれ、試行錯誤が始まる場面はとても貴重です。



みんなで進めるパーティー

年長児になると、互いのよさや得意なこと、興味をもっていることを理解し「～な時は〇〇くんに頼もう」「〇〇ちゃんなら力になってくれるはず」「〇〇ちゃんは～思っているんじゃない？」等、互いに生かし合ったり理解し合ったりする力が育ちます。カレーライスパーティーや夕涼み会の迷路づくり等、クラスみんなで進めていく活動の中で、友達とつながりを意識しながら同じ目的に向かって行動する姿を、しっかりと見ています。友達とつながるよさを味わう体験こそ、人権感覚や協働する態度の基盤になります。



大きな川に集まる園児たち

カレーライスパーティーや夕涼み会の迷路づくり等、クラスみんなで進めていく活動の中で、友達とつながりを意識しながら同じ目的に向かって行動する姿を、しっかりと見ています。友達とつながるよさを味わう体験こそ、人権感覚や協働する態度の基盤になります。

## 特別支援学校の友達との交流会（小学校）

4年生の未来創造学習では、「つながる・ひろがる 人と人」をテーマに、特別支援学校の友達と仲良くなるための活動を進めてきました。まず相手のことをよく知るために、特別支援学校の先生を招き、友達や学校の様子、交流する時のポイントなどを教えていただきました。また、子供たちが実際に使っているツール



ペアのお友達と一緒に遊ぶ

も見せていただき、交流への見通しをもつことができました。また、交流会に向けてビデオレターや自己紹介カードを作りました。どうすれば相手に伝わるのか考えながら作る姿が見られました。そして、交流会本番。子供たちは初めて会う友達と、歌やゲームを通して仲良くなっていきました。自由遊びの時間には、徐々に慣れ、笑顔で触れ合うことができました。今回の交流の経験を、9月の運動会にも活かし、特別支援学校の友達との仲を更に深めていきます。



特別支援学校の先生からお話を聞く

## 親子セミナー講演会（中学校）

社会福祉法人ラーフ理事長の毛利公一さんをお招きし、多くのご示唆をいただきました。「ピンチの 때가チャンス」と捉え、「夢や目標を語る」ことの大切さ、そして、それぞれ得意や苦手をもつ私たち自身も「挑壁者」として生きていくことが、自分らしく「よく生きる」ことにつながるのだと実感しました。



夢を語る毛利さん

### 【講演を聞いた生徒の感想】

- ・話をきいて、自分が情けなくなりました。私はこれから、いろんなことにふれて、体験していきたいと思います。そして、最期のときに、自分によくやったと言える人生にしたいです。
- ・この講演を聞いて、「ピンチはチャンス」、「夢や目標を語る」ということの重要さを感じました。この講演を聞く前は、夢は恥ずかしくて語るという事はしていませんでしたが、語ることによって実現につながると分かりました。